

群 教 セ	G01 - 03
	平 17.228集

書き手の論理の展開をとらえる力 をはぐくむ指導の工夫

－ 「キーワード探し」「段落並べ」の学習活動を通して －

特別研修員 安藤 哲也 (前橋市立春日中学校)

(研究の概要)

本研究は、説明的な文章を読むことの学習において「キーワード探し」「段落並べ」の学習活動を取り入れ、書き手の論理の展開をとらえる力を育もうとしたものである。段落相互の関係や要点をとらえるためのキーワードを探したり、意味段落の要点を記したカードを使い段落の並べ方を考えたりする。そこで考えたことを文章の構成や展開が一目で見えるワークシートに整理することにより、書き手の思考の筋道に迫れるようにした。

キーワード 【国語 - 中 読むこと 書き手の論理 展開をとらえる キーワード 段落】

主題設定の理由

本校の生徒は、休み時間等に図書室で好きな本を読んだり、総合的な学習の時間などに必要な情報をインターネットや本から探したり集めたりすることには進んで取り組んでいる。しかし、例えば、発表用の資料を作る際、調べた文章の中から重要ではない部分までを引用してしまい、伝えたいことがうまく伝わらない生徒や、説明的な文章を読む学習で、書き手の主張と具体的事例を区別できなかつたり形式段落を意味段落にまとめられなかつたりする生徒もいる。これは、文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分けたり、段落ごとに内容をとらえ段落相互の関係を正しく押さえたりする読みの力が身に付いていないためであると考えられる。

これまで、説明的な文章の学習では、内容を正確に把握させようと段落ごとの詳細な読みに重点を置いてきた。このことにより、今、読んでいる段落の要点は何かということを考えながら読む姿勢は見られるようになってきている。しかし、文章全体の中での段落の役割や段落相互の関係を生徒が意識し考えることは十分ではなかった。中学校学習指導要領国語「C読むこと」の第2学年及び第3学年の指導事項「イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること」を踏まえ、文章の構成や展開を正確にとらえる力を基盤として、さらに書き手の個性的な説明の工夫や説得の方法などをとらえる

ことを目指した学習を充実させる必要がある。

そこで本研究では、書き手の論理の展開をとらえる力をはぐくむために、説明的な文章を読むことの学習において、段落の役割や段落相互の関係、各段落の内容を考えるためのキーワードを探したり、書き手になったつもりで段落を並べたりする学習活動を行う。文中のどの語句が段落と段落とを関係付けているか、各段落の要点をとらえる際に欠かせない語句はどれか、なぜ書き手は段落を題材文のように並べたのかなどを考えさせる。生徒は、どの語句が複数の段落で使われ、また言い換えられているのかを確かめたり、どの語句に書き手の思いが込められているかを考えたり、段落をどのように並べることが分かりやすさにつながるのかを考えたりすることで、書き手の論理の展開についてとらえていくことができると考える。

以上のことから、説明的な文章を読むことの学習において、「キーワード探し」「段落並べ」の学習活動を取り入れることが、書き手の論理の展開をとらえる力をはぐくむために有効であると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

説明的な文章を「読むこと」の学習において、「キーワード探し」「段落並べ」の学習活動を取り入れることが、書き手の論理の展開をとらえる力をはぐくむために有効であることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 文章の構成をつかむ過程において、題名、文末の表現の仕方などを手がかり（キーワード）にして、書き手の主張（結論）が書かれている段落を見付け、そこから主張（結論）に対応する話題提示の段落を見付ける読み方をすることで、主張（結論）に至るまでの構成や展開を意識して文章を読もうとするだろう。
- 2 文章の内容を理解する過程において、どの語句が重要な役割を果たすキーワードになっているかを考える「キーワード探し」の学習活動を取り入れ、形式段落を意味段落にまとめたり、意味段落に見出しを付けたりすることで、意味段落の要点や文章全体の中での段落相互の関係をとらえることができるだろう。
- 3 文章の展開にせまる過程において、意味段落の要点を記入したカードを操作する「段落並べ」の学習活動を取り入れ、主張（結論）を説明するためにはどのような並べ方がよいか、書き手はなぜ題材文のような文章の展開をしたのかについて考えることで、書き手の論理の展開をとらえることができるだろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 書き手の論理の展開をとらえることについて

書き手の論理の展開とは、どのような語句を用い、どのように話題を提示し、どのような具体的事例を根拠にして、どのように主張に説得力をもたせるか、書き手の個性的な説明の工夫が表れる叙述の方法のことであると考えた。

書き手の論理の展開をとらえるには、文章の構成や展開について把握しなければならない。文章の構成とは段落による文章の組立であり、展開とは文章を貫く書き手の思考の流れであると考えた。文章中の各段落で、どのような語句により、どのような内容が述べられ、段落相互はどのような関係にあり、各段落はどのような思考の筋道でつながっているのかを把握することで、文章の内容を正確に理解することができると思う。

はぐくんでいきたい書き手の論理の展開をとらえる力とは、各段落の内容（要点）をつかみつつ、

各段落が主張（結論）に向かってどのように並べられているか、その筋道を理解する力であると考えた。書き手によって様々な文章も、基本となるのは段落ごとの思考のまとまりであり、主張（結論）に至るまでの話題提示や具体的事例の段落の並び方をとらえることで、書き手の思考の筋道に迫れるものとする。

(2) 「キーワード探し」「段落並べ」の学習活動について

キーワードとは、文章中の段落と段落の関係を考えたり、内容をとらえたりする上で重要な役割を果たす語句のことである。例えば、形式段落を意味段落にまとめる際に手がかりとなる語句、話題提示の段落と主張（結論）の段落とで言い換えて使われている語句、要点をとらえる際に手がかりとなる語句のことを指している。この「キーワード」には、接続語や指示語も含んでいる。

「キーワード探し」の学習活動とは、次のようである。文章中で繰り返し使われている語句を探し、その語句に着目して幾つかの形式段落をまとめ意味段落としてとらえる学習活動。言い換えられながらも同じ意味を表すものとして別の段落で使われている語句に着目し、段落と段落とのつながりを考える学習活動。意味段落の内容をとらえる上で重要な語句を探し、それらの語句を使って要点をまとめる学習活動。これらの学習活動を通して、文章全体の中での段落の役割や段落相互の関係、語句の使い方について考えさせ、書き手の説明の仕方をとらえさせる。

「段落並べ」の学習活動とは、それぞれの意味段落の要点をカードに記入し、主張（結論）を導くためにどのように並べると分かりやすいかをその理由とともに考える学習活動である。この学習活動を通して、なぜ書き手がこのような文章の構成にしたか、このような文章の構成による効果はどうかについて考えさせる。

「キーワード探し」「段落並べ」のいずれの学習活動も、生徒同士の交流により考え合って進めていくものにしたい。そのことにより、段落の役割はどうか、その語句がなぜキーワードになるのか、キーワードを使ってどう要点としてまとめるのか、段落相互の関係をどう考えるのか、どのように意味段落を並べたら分かりやすいのか、書き手の意図はどうかなどについて、考えを友達と照らし合わせながら、自分自身の考えをより深められるようにしていく。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対象	前橋市立春日中学校 2年2組 29名	期間	平成17年10月下旬 (6時間)	単元名	「ガイアの知性」 (教育出版 2年)
目標	「キーワード探し」「段落並べ」の学習活動を通して、段落相互の関係や内容の要点をとらえたり段落の並べ方について考えたりすることにより、書き手の論理の展開をとらえる。				

(2) 検証計画

	検証項目	検証の観点	検証方法
見 通 し む 過 程 1	文章の構成をつかむ過程	題名、文末の表現の仕方などを手がかりに、まず書き手の主張、次に話題提示の大段落を考えると読み方をするのが、主張に至るまでの文章の構成や展開についての意識をもつ上で有効であったか。	第三大段落(主張)と第一大段落(話題提示)とのつながりを表している語句に気付いているか観察する。(発言、ノートの記述) 第二大段落の役割について考えているか分析する。(発言、ワークシートへの記述)
見 通 し す る 過 程 2	文章の内容を理解する過程	どの語句がキーワードになるか考え、それを基に意味段落にまとめたり見出しを付けたりすることが、意味段落の要点や段落相互の関係をとらえる上で有効であったか。	文章中の特定の語句に着目し意味段落の要点や段落相互の関係を考えているか分析する。(発言、題材文への印付け、ワークシートへの記述)
見 通 し る 過 程 3	文章の展開にせまする過程	意味段落の要点を書いたカードを操作しながら、自分なりに並べ方を考えたり書き手が題材文のように並べた理由について考えたりすることが、書き手の論理の展開をとらえる上で有効であったか。	自分ならどう並べるかを考え書き手との考え方の違いを感じたり、読み手を意識し書き手の立場から文章構成を考えたりしているか分析する。(発言、ワークシートへの記述)

(3) 抽出生徒

A (女)	説明文を読むときには、形式段落を意味段落のまとめりでとらえようとし、内容を正確に読み取れる。内容理解に加え、文章の構成や展開について書き手の意図を考えながらとらえさせたい。
B (女)	説明文を読むときに、意味段落のまとめりで内容をとらえられず、文章全体の構成がつかめない。意味段落ごとに要点をpushしながら段落相互の关系到目させ、文章の構成を考えさせたい。

研究の展開

1 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
自分ならどのように文章を構成するか題材文と比較し書き手の説明の仕方のよさを考えようとしている。	三つの大段落を八つの意味段落に分けて要点をとらえ、意味段落相互の関係を理解している。題材文と比較しながら主張に至るまでの書き手の説明の工夫について考えている。	使われている語句や具体例の提示の仕方に読み手を惹き付ける工夫があることに気付いている。

2 指導と評価の計画(全6時間)

時間	学 習 活 動	学 習 へ の 支 援	評 価 項 目
1 【見 通 し 1】	初読の後、まず書き手の主張が書かれている大段落を探し、次に対応する話題提示の大段落を考えることで、三つの大段落の役割をとらえる。	題名や「知性」「～とわたしは思っている」という語句に着目させる。書き手の主張(結論)が文章全体のどこにあるか確認し、第三大段落に主張(結論)があることを手がかりにして、第一、第二大段落の役割を考えさせる。	(言)題名の「ガイア」「知性」という語句に着目している。 (読)三つの大段落が「話題提示」「具体的事例」「主張(結論)」であることを理解している。

2 3 4 【見 通し 2】	どの語句がキーワードになっているか考えて、三つの大段落をさらに八つの意味段落に分ける。 それぞれの意味段落の要点をとらえて見出しを付けるとともに、意味段落相互の関係を考える。	繰り返し使われている語句やその語句が使われている形式段落の範囲、形式段落の冒頭にある接続詞に着目させる。 キーワードを手がかりに要点をまとめさせ、要点を基に見出しを考えさせ、見出しを手がかりに意味段落相互の関係をとらえさせる。	(読)「知性」「例えば」等、文章の中で重要な働きをしている語句を基に意味段落のまとまりをとらえている。 (読)考えた見出しをもとに、それぞれの意味段落が大段落の中でどのような関係にあるかをとらえている。
5 6 【見 通し 3】	意味段落の要点をカードに書き、どのように並べると説得力がある説明の仕方になるか、なぜ書き手は題材文にある並べ方をしたのかを考える。	自分が書き手ならどのように説明するかという視点を持ち、必要だと思うカードを選んで並べさせる。また、自分の説明の仕方と題材文を比較し、それぞれの意味段落が必要な理由を考えさせる。	(読)具体的事例の順序や、話題提示の段落と主張(結論)の段落とのつながりから、文章の構成や展開を考えている。 (関)書き手と自分の説明の仕方を比べて考えようとしている。

研究の結果と考察

1 題名、文末の表現の仕方などを手がかりに、まず書き手の主張、次に話題提示の大段落を考えるという読み方をすることが、主張に至るまでの文章の構成や展開についての意識をもつ上で有効であったか三つの大段落のどこに書き手の主張(結論)が書かれているかという問いかけに対し、ほとんどの生徒が題名である「ガイアの知性」や「～とわたしは思っている。」という語句を手がかりに第三大段落を選ぶことができた。また、大段落ごとに行き空いていることから、「第三大段落が結論なら、第一、第二大段落は何だろう?」と、自ら疑問をもつ生徒もいた。そのため、文章全体の中での大段落ごとの役割を考える学習活動に自然な流れで取り組めた。

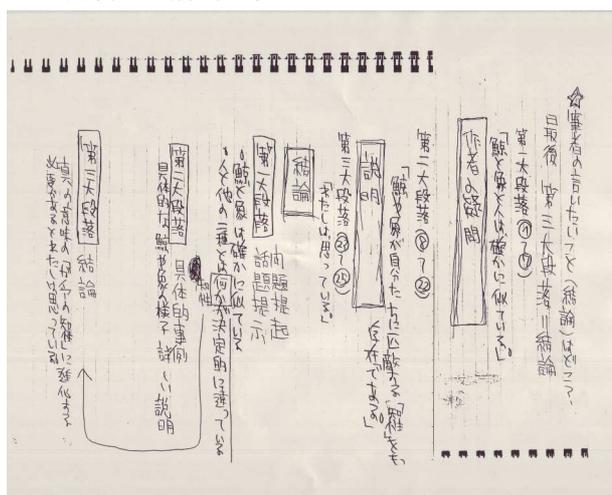
一読後、生徒が最も興味をもったのは、鯨や象の具体的な様子が描かれている第二大段落であったため、「第二大段落は具体的な説明だ」とすぐに気付いた。しかし、本題材文は冒頭で読み手に対してははっきりと疑問を投げかけるような書き方をした文章ではないので、第一大段落がどのような役割をしているか、何のためにあるのか、説明できない生徒も半数ほどいた。

抽出生徒Aは、第三大段落が結論であり、第二大段落が具体的事例であるから、第一大段落は書き手が問題を提示している部分であろうと予想した。その予想を裏付ける根拠として、第一大段落には「人間が、どうして野生の動物に対して畏敬の念まで抱くようになってしまうのだろうか。」

と書き手が読み手に疑問を投げかけている文があることを挙げていた。

抽出生徒Bは、第一大段落の最後の文の「…人と他の二種とは何かが決定的に違っている。」という部分に着目し、第一大段落は作者の疑問であると考えた(資料1)。そして、理由を「違っているものを『何か』と言ってはっきりさせていない。この違っているものは多分第三大段落に書いてある『知性』のことだと思う。第三大段落で答えを言うために、ここで疑問を出しているのだと思う」と説明した。

資料1 抽出生徒Bのノート



このように、文章全体の構成を意識して読むことの少ないBが第一大段落と第三大段落のつながりを考えられていたのは、始めに第三大段落に書き手の主張があるため、ここが結論であるという

大段落の役割を押さえた読み方ができたからであろう。また、主張の内容を読み取るだけでなく、第三大段落には結論が書かれていると役割を理解することで「では、第一、第二大段落にはどのようなことが書かれているのだろうか？」という疑問をもつことができたのだと考える。

以上のことから、まず書き手の主張が書かれた大段落を探し、結論部分を把握した上で、次に話題提示の大段落を考えるという読み方をすることが、主張に至るまでの文章の構成や展開について意識をもつ上で有効であったと考える。

2 どの語句がキーワードになるか考え、それを基に意味段落にまとめたり見出しを付けたりすることが、意味段落の要点や段落相互の関係をとらえる上で有効であったか

どの語句がキーワードになるか考えながら形式段落を意味段落にまとめるにあたり、あらかじめ生徒にはワークシートによって、文章全体は八つの意味段落から成っていること、第一大段落は二つの意味段落に、第二大段落は五つの意味段落に分かれることを示しておいた。

形式段落を意味段落にまとめようとするとき、何を手がかりにするかという問いに、抽出生徒Bを含む六人の生徒が「形式段落の始めの言葉」「接続詞」などと答えた。このことを手がかりに「形式段落の始めの接続詞をキーワードとして意味段落にまとめてみよう」と投げかけると、ほとんどの生徒が第二大段落の中から「例えば」「また」「象については」という語句を見付け出し、意味段落の五六七をまとめられていた(資料2)。

資料2 抽出生徒Bのワークシート

第一大段落		第二大段落	
形式段落の範囲	意味段落の範囲	形式段落の範囲	意味段落の範囲
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧

抽出生徒Bのワークシートには、上記の表に以下の見出しが記されています。

- 第一大段落 ①: 何回も使われていて、ある範囲だけで使われている言葉に着目すればいい
- 第一大段落 ②: 大事な言葉は何度も使われているはずだから繰り返し使われている言葉に着目すればいい
- 第二大段落 ①: 「知性」
- 第二大段落 ②: 「生」
- 第二大段落 ③: 「例えば」
- 第二大段落 ④: 「また」
- 第二大段落 ⑤: 「象については」

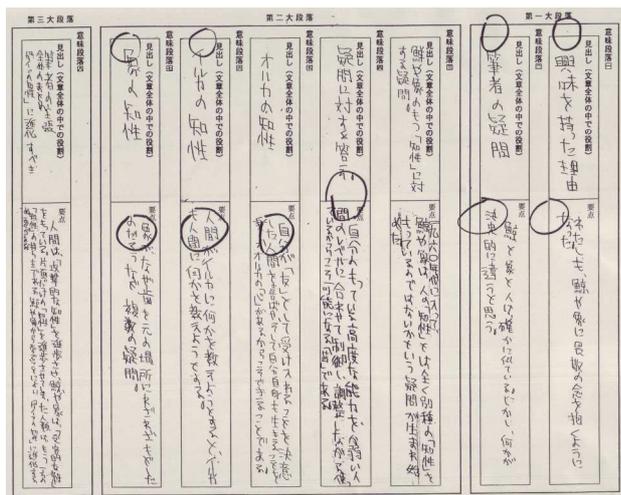
その後、第二大段落に含まれる意味段落三と四の分かれ目を示し、形式段落の冒頭に接続詞がない場合には何をキーワードにしてまとめればよいかと問うと、抽出生徒A、Bを含む多くの生徒が、意味段落三では「知性」を、意味段落四では「芸」をキーワードに挙げていた。理由として「大事な言葉は何度も使われているはずだから繰り返し使われている言葉に着目すればいい」「ある範囲だけで使われている言葉に着目すればいい」と説明していた。キーワードについて同様に考えることで、大部分の生徒が第一大段落を二つの意味段落に分けることができていた(資料2)。

意味段落の要点をまとめるにあたり、どのように考えればよいかという問いかけに、Aは「キーワードはその意味段落の中で大事な言葉なのだから、キーワードを使ってまとめればいい」と答えていた。授業後の感想では、ほとんどの生徒が意味段落の要点をまとめるときにキーワードが役立ったと述べていた。「説明文を読むのは嫌い」「説明文は読んでも理解できないことが多い」と、事前のアンケートに答えていた生徒たちも「キーワードを見つけたことで文の中の重要なところが分かりやすかった」「どこを見ればいいかキーワードを見れば分かりやすかった」と述べていた。

意味段落に見出しを付けるにあたり、大部分の生徒がキーワードやまとめた要点を基に考えていた。ただ、それぞれの意味段落が大段落の中でどのような役割をしているか考え、見出しとして表すことにはA、Bを含め、多くの生徒が難しさを感じていたようだった。そこで、「第一、第二大段落は、なぜ複数の意味段落に分かれているのだろう。分かれている以上、それぞれの意味段落に分かれるだけの理由があるはずだよ。それぞれの意味段落は何を言いたいために分かれているのか、理由を考えてみよう」と、意味段落のもつ役割を生徒が意識できるような問いかけをした。すると、Bは意味段落ごとの要点を比較しながら、できるだけ違う言葉で見出しを表そうとしていた(資料3)。周囲の生徒がそのことに気づき、「そうか。言葉を変えることでそれぞれの意味段落の違いが分かりやすくなるよね」と、自分の考えた見出しを見直す姿も見られた。

このように、役割を表した見出しをワークシートに書き込んでいくことで、「こうすれば全体の内容が一目で分かる」と笑顔を見せる生徒の姿も見られた。

資料3 抽出生徒Bのワークシート



文章中のどの語句がキーワードになるか考えることが、生徒にとって段落の関係や内容を理解することにつながっていたと考える。つまり、接続詞をキーワードとすることで段落の分かれを判断し、重要な語句をキーワードとすることで要点をつかんでいたのである。さらに要点を基に見出しを考え、並べることで文章全体の構成を把握していた。以上のことから、どの語句がキーワードか考えながら意味段落をまとめたり意味段落に見出しを付けたりすることが、意味段落の要点や段落相互の関係をとらえる上で有効であったと考える。

3 意味段落の要点を書いたカードを操作しながら、自分なりに並べ方を考えたり書き手が題材文のように並べた理由について考えたりすることが、書き手の論理の展開をとらえる上で有効であったか

カード化した意味段落の要点を配布し「あなたならどのように並べて主張を説明するだろう」と問いかけると、それぞれの生徒が主体的に考え周囲の友達に自分の意見を話していた。

抽出生徒Aは「文章全体の話題を投げかけている意味段落二を冒頭においた方がよい」「意味段落四に象のことは書かれていないし、知性の例としてあまり大切ではなさそうだけれど、鯨や象の知性に対する疑問が出てくる前に例が一つあった方がよさそうだから、意味段落七を意味段落三の前に置く」と考えていた(資料4)。

また、抽出生徒Bは「最初、読んだ人に疑問をもってもらうため、意味段落二は冒頭におく」「意味段落二に書かれている『人と他の二種とは何かが決定的に違っている』という部分は、意味段落三の『鯨や象は、人の「知性」とは全く別種の「知

性」をもっているのではないか』という部分と同じことを言っている。重複する意味段落三は省略してよい」と考えていた(資料5)。

A、Bの考えに対して、学級の友達からは「いきなり意味段落二が出てきても驚いてしまうよ。なぜ書き手はそんな話題を出すのだろうという説明が必要ではないか」「具体的事例が意味段落五、六、七の順番で並んでいるけれど、これは人間に近い知性から人間には考えられない超常現象のような知性の順番になっているのではないか」「意味段落三が無かったら、人と他の二種との決定的な違いが知性であると、話題を焦点化できないのではないか」という意見が出された。

これらの意見を聞き、書き手の説明の仕方について考える際に、Aは「最初は読者に向けてこのようなことがあったからこの話題を提示したのだということが分かるようにする」「五、六、七の事例の順番は、簡単な知性から説明し読者に興味をもたせ、七は超常現象のような高度な知性を最後に説明し、読者の考えを変えさせる」などと、自分の考えを少し修正した(資料4)。

また、Bも「まず一で自分がなぜ興味をもったか知ってもらい、次に二で読み手にも興味をもってもらおうようにする」「三を置くことで読み手にも一緒に考えてもらうようにする」などと、自分の考えを見直していた(資料5)。

授業後の感想で、A、Bともに、自分なりに文章の構成を考えることが書き手の文章の構成の仕方について考えるために役立ったと述べた。その理由として「自分と筆者を見比べて、どのような並び方の差があるのかなどを考えられたから」「自分と筆者の考え方を比較できたから」と答えていた。同様に「自分が筆者になりきったりして、こうしたかったんだなどと分かりやすくなった」と感想を述べる生徒の姿も見られた。

説明文の内容を読み取るだけでなく、書き手がどのように説明しようとしたのかをとらえるためには、説明する立場の意識をもつとよいだろうという考えから意味段落の要点のカードを操作する方法を試みた。実際に並べ替えながら、意味段落ごとのつながりを考えることで、どのように説明したら分かりやすいかということを中心に考えることができたと思われる。また、自分なりの説明の仕方を考えた後に、書き手がなぜ題材文のように説明をしたのかを考えることで、自分の考え方との違いを知ることができ、書き手の説明の仕

方をとらえることができたと思われる。以上のことから、意味段落の要点をカード化し、説得力のある並べ方や書き手が題材文のように並べた理由

について考えることが、書き手の論理の展開についてとらえる上で有効であったと考える。

資料4 抽出生徒Aのワークシート

<p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p> <p>◎筆者の説明の仕方について、考えよう。部分的に答えてもよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 ★なぜ、これらの意味段落があるのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？</p> <p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p>	<p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p> <p>◎筆者の説明の仕方について、考えよう。部分的に答えてもよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 ★なぜ、これらの意味段落があるのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？</p> <p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p>
--	---

資料5 抽出生徒Bのワークシート

<p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p> <p>◎筆者の説明の仕方について、考えよう。部分的に答えてもよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 ★なぜ、これらの意味段落があるのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？</p> <p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p>	<p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p> <p>◎筆者の説明の仕方について、考えよう。部分的に答えてもよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 ★なぜ、これらの意味段落があるのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？ ★なぜ、このように並べたのだろう？</p> <p>◎あなたが筆者からどのような説明をうかがったか、必ずしも全ての意味段落をわけてよい。</p> <p>意味段落の並べ方順序 理由 語句をわけてきた部分が多い最初になる。前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。また、前の問題をわけてきたので、問題をわけてきた順番に答えてきた。</p>
---	---

研究のまとめと今後の課題

「キーワード探し」の学習活動では、どの語句がキーワードか指摘することが段落の関係や内容を理解することにつながっていた。キーワードを踏まえて、意味段落をまとめたり見出しを付けたりすることで、意味段落の要点や段落相互の関係をとらえられていた。

意味段落の要点をカード化し、操作しながら自らの並べ方や書き手が題材文のように並べた理由について考える「段落並べ」の学習活動を取り入れたことで、主張を説明する書き手の立場に立って文章の構成や展開を主体的に考えることができた。また、自分と書き手の説明の

仕方の違いを比較することで、書き手の論理の展開をとらえることができた。

説明の仕方にはいろいろなパターンがあり、それぞれの長所、短所について意見を言い合うには時間が不足した。今後は、自分の説明の仕方、友達の説明の仕方、書き手の説明の仕方について比較し合い、それぞれの長所・短所を検討する授業を工夫していきたい。

参考文献

- ・河野 庸介 編著 『絶対評価を踏まえた中学校 説明的な文章の指導法』 明治図書(2002)
- ・須田 実 編著 『国語力をつける発問づくり』 明治図書(2005)